

第2次札幌市都市計画マスタープランに対する意見の概要

大人

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	0	2	0	4	0	3	8	1	18

提出方法	持参	HP	郵送	Eメール	FAX	不明	合計
人数	0	7	9	2	0	0	18

分類	件数
全体	8
1 目的と位置付け	6
2 これまでの都市づくり	1
3 都市づくりの理念、基本目標等	19
4 総合的な取組の方向性	7
5 部門別の取組の方向性	1
5-1 土地利用	11
5-2 交通	8
5-3 エネルギー	6
5-4 みどり	2
5-5 各種都市施設	7
6 取組を支える仕組み	2
合計	78

キッズ

学年	人数
小学4年生以下	0
小学5年生	6
小学6年生	192
中学1年生	3
中学2年生	8
中学3年生	1
不明	0
合計	210

意見の概要

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
1	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆近隣市町村との連携・協力が必要 ・近隣市町村との連携・協力がなければ、札幌市を含む今後の「札幌都市圏」全体の発展や存続は望めないと考える。 ・考え方が示されているのは、「札幌型の集約連携都市のイメージ」と「札幌市の集約連携都市将来の都市空間図」だけ。
2	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆各区について区民等が主体的に考えるべき ・各区の違いをより鮮明にし、区民、各区役所が主体性を持って考える必要がある。
3	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民の主体性が必要 ・より多く説明する機会を設け、住民がプランを立てるべき。
4	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆内容が抽象的 ・全体的に抽象的な美辞麗句が踊っている。 ・もっと市民の生活に根ざした捉え方と具体的な提案が必要。
5	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民参加事業への障がい者の参加 ・障がい者も事業に参加させてほしい。高齢者の意見も必要。
6	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆計画の運用について疑問 ・平成16年に現行計画が策定されているが、その後の平成17年に南区豊滝に北海道初のサファリパークとしてオープンした施設もあり、都市計画法や都市マスが運用されているか疑問。
7	P39、84ほか	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆地下道の拡充 ・地下道が充実すれば雪の心配がなくなり、結果的にコンパクト化が進む。 ・まずは道庁や市役所に地下道をつなげる。
8	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆身近に介護相談場所が必要 ・老老介護が増えている中でもっと身近に介護相談場所も欲しい。
9	P2	1 目的と位置付け 1-1 目的と背景	<ul style="list-style-type: none"> ◆「都市づくり」、「まちづくり」の表現整理 ・ジャンルや場面によっては分離しづらい部分も出てくるので、厳密に区別することが難しい。 ・「まちづくりにおける市民参加」「協働によるまちづくり」などの文言が該当し、「都市づくり」という括りだけでは表現が困難となる。
10	P4	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	<ul style="list-style-type: none"> ◆計画案作成の意図と内容をわかりやすくする ・都市計画をなぜ作るうとするのかが不明で分かりにくく、札幌市の都市計画は、何を重視しているのか理解できない。 ・ビジョンとかコンセプトなどの言葉を使わず、普通の市民がわかる言葉で描くべき。 ・戦略ビジョン→ビジョンの中の何を受けて都市計画を作成したのかをフローで描く。その上で、たとえば、計画の構成をp8以降に述べているなど、計画の全体像がわかりやすいように描く。
11	P4～5	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	<ul style="list-style-type: none"> ◆札幌型の集約連携都市の記述再考 ・近郊の小樽市(港)、石狩市(新港)、北広島市、北広島市、千歳市(空港)、苫小牧市(港)などのアクセスやネットワークを重視したモデルですが、以降の記述ではこの点にはまったく触れていない。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
12	P6	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	<p>◆人口増加策が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人達を充分惹きつける魅力を持った都市ですから、活動次第では人口の増加は可能と思う。 ・第一に重要なことは「雇用」であり、産業の育成、企業の誘致などの努力が必要。 ・抽象的な言葉が(理解出来ない)繰り返し並び、簡潔、具体的な表現が必要。
13	P10	1 目的と位置付け 1-4 計画の構成	<p>◆JR白石駅周辺の交通拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄白石駅からJR白石駅までを複合型高度利用市街地とし、白石区のバランスのとれた発展を図る。 <p><具体例></p> <ol style="list-style-type: none"> ①JR白石駅へのエアポート停車を増大。 ②白石区役所－白石温水プール－JR白石駅－白石体育館へコミュニティバス(循環バス)を設ける。 ③JR白石駅に区役所の出張機能を併設。 ④JR白石駅南口から澄川のバスルートに福住・札幌ドームを追加し、江別・岩見沢方面からの利用の便に供する。
14	P10	1 目的と位置付け 1-4 計画の構成	<p>◆札幌らしいライフスタイルの具体的な記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌らしいライフスタイルを一般的な表現ではなく、具体的な事例をぶして記述すべき。
15	P14	2 これまでの都市づくり	<p>◆過去の事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の「都市づくり」を単に振り返って叙述するだけではなく、マスタープラン策定にあたって取り入れた事例を紹介してはいかがか。
16	P20～24	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	<p>◆課題と解決方法をリンクさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・述べられた課題がどのように解決するのかがわかりにくい。 ・p21に交通環境の変化として高齢者のことも含む課題があげられているが、その解決策は述べられていない。 ・p77には公共交通ネットワークの基本方針の項があるが、高齢者のための交通のあり方には触れていない。 ・p20以降の課題のところに、解決策はp〇〇以降参照というように、課題と提案をリンクさせるようにすべき。
17	P20	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	<p>◆「待機児童の早期解消」などの具体的な記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【課題】保育所の整備をはじめとした子育て支援の充実としてますが、「待機児童の早期解消」と具体的に記述してはいかがか。
18	P21	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	<p>◆再生可能エネルギーの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入について、市民の再認識をもっと啓発すべき。
19	P21	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	<p>◆自転車政策が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートランド市は、徒歩や自転車で移動できるコンパクトな市街地が基礎となっている。 ・「自転車の利用環境の改善を図ります。」とあるが、本格的に自転車政策に取り組む姿勢が明記されていない。 ・札幌を「日本No.1の自転車のまち」へと導いてほしい。
20	P25	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	<p>◆夏期の冷涼さを利用した取組みを考慮すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間の積雪寒冷を利用した様々の取組みの記述がみられますが、「夏期の冷涼さを利用した取組み」についての記述が見られないため、この点も考慮すべきものと考えます。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
21	P25	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	◆歴史的建造物の指定と保全・活用 ・魅力ある街並みを創出するため、「歴史的建造物の指定と保全・活用」が重要ではないか。 ・既存の建物を歴史的観点からとらえ活用し、都市の効率的な維持・管理を実現しながら都市の文化的魅力も高めることができる。
22	P25～26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	◆都心部のみならず、居住地域の景観の質を高めるべき ・「景観美」についての言及が少ない。 ・“札幌固有の”景観をつくる以前に全市の景観の底上げをしてグローバルスタンダードの達成をめざすべき。 ・都心部の景観を今日のレベルまで向上させたことは評価できるが、居住地域の景観は貧しく、「都心部の景観美を居住地域まで拡大していく」ことを目標に据えるのはマスタープランの使命ではないか。 ・「世界を惹きつける「都心の」まちづくりを…」を「世界を惹きつける街づくりを…」とすることを提案する。
23	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	◆「高齢者の増加に伴う都市づくり」の項目を起こすべき ・高齢人口の増加に伴い、車を持たない高齢者が歩いていける所に公共施設(介護支援施設)や商店、交流の場がある、そういうまちづくりが必要との項を入れる。
24	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	◆高度地区の見直し、景観の保護 ・高層マンションの建設により、既存住宅がマンションに囲まれている状況が見られる。 ・商店街に商業機能をもたないマンションが建ち並び、商店街の密度の低下や景観の悪化がおこっている。 ・各地区の実情に合わせた高度地区の見直しや、商店街の連続性や景観の保護が必要である。
25	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	◆雪堆積場の確保 ・「エネルギー効率の良い低炭素型の都市構造」とあるが、雪堆積場が極めて少ないため、郊外に雪を運ぶというエネルギーとコストの無駄を理解してのことか。 ・小規模でも良いので街区公園並の配置基準で雪堆積場を確保することを義務付けてほしい。
26	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆スマイルズ・シティ・サッポロの市民への説明 ・スマイルズ・シティ・サッポロはなぜ必要か、市民に説明したほうがいいのではないか。
27	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆基本理念は誰にでもわかる日本語で表現すべき ・S・M・I・L・Es City Sapporoなるキャッチフレーズを見て我がまちの街づくりの理念がわかる市民はいるか。 ・SustainabilityやInnovationは名詞であり、LivableやManagingは形容詞であるなど、英語としても統一性がない。公的な文書にことば遊び風なもの相応しいとは思えない。 ・理念は英語の頭文字をやめて、誰にでもわかる日本語で表現することを提案する。 ・どうしても英語にしたい、というのであれば、少なくとも品詞を名詞ないしは形容詞に統一し、最終的にnative speakerの意見を聞くべき。
28	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆基本理念の「Es」が不適切 ・「S・M・I・L・Es City Sapporo」の最後の要素「Es」が少々強引に思う。 ・単語を特定せずに「～など」とするのはよくわかりませんし、市民が共通の理解をすべきものである基本理念としては失当。
29	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆基本理念の「Es」に「electronic(電子的な)」も含まれるか

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
30	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆S・M・I・L・Esは正しい使用方法か ・上記英単語は名詞と形容詞が混在して使用されているが、正しい使用方法か。
31	P27～28	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆都市づくりの理念、低炭素社会の説明が分かりづらい。
32	P28	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆近隣市町との連携の視点が重要 ・近隣の市町と連携して、周辺地域全体の調和のとれた都市づくり・地域づくりという視点が重要。 ・「4 総合的な取組の方向性」にもつながっていくのではないか。
33	P29	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆雪堆積スペースの確保 ・建築の際に、雪堆積スペースの確保を義務付け、車両や人の出入口の幅を間口の3分の1以下に制限し、道路除雪した雪を道路に置けるようにすべき。
34	P30～31	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	◆都市空間像と取組の進め方が不明 ・どのようにして計画されたものかわからない。考え方、進め方はどこからきたものなのか。
35	P36	4 総合的な取組の方向性 4-1 魅力があふれ世界をひきつける都心	◆駅前通周辺地区の成長を重視 ・「札幌駅周辺地区」を薄紫の地味な配色とし、低迷している「大通地区」を赤色の目立つ配色をして、「駅前通周辺地区」よりも大きく表示しているが、伸びしろのある駅前通周辺地区の成長に力を注ぐべきだ。
36	P37	4 総合的な取組の方向性 4-1 魅力があふれ世界をひきつける都心	◆歩行者優先の交通環境形成 ・歩行での移動には限度があるため、自転車も含め、市民の自転車通勤者を10%とすることを目標としてほしい。 ・自転車生活で困るのは都心の横断であり、自動車も多く、信号も多く、横断に時間がかかる。
37	P38	4 総合的な取組の方向性 4-1 魅力があふれ世界をひきつける都心	◆低炭素市街地の説明が必要
38	P39～43	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	◆地域交流拠点に反対 ・「地域交流拠点」方式は、札幌市内の過疎化を生み出すのではないか。 ・大型店の郊外進出で、地域の小売店が撤退している。こうした動きに拍車をかけるので反対。
39	P39	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	◆「豊平駐屯地」跡地も地域交流拠点にすべき ・平岸は地域交流拠点としているが、広大な敷地を確保できる「豊平駐屯地」跡地も地域交流拠点とすべき。 ・豊平区役所を移転してはどうか。
40	P41～42	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	◆先行的に取り組む地域交流拠点 ・なぜ4箇所にしたのか説明するべき。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
41	P42～43	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	◆地下鉄駅直結の場所の市民への解放 ・麻生～北24条の間の北34条は、アクセスも悪くないのに閑散として物騒な雰囲気。 ・地下鉄駅直結の場所を市民の活動の場として開放し、魅力を高める必要がある。
42	P51～106	5 部門別の取組の方向性	◆抽象的な表現、統一性のない表現の改善 ・【特に重視すべき鋭点】の各項目が、少々抽象的な表現が多く、工夫が必要。 ・【基本方針】の書きぶりが、全体的な統一性に欠ける。
43	P52	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆市街化調整区域の規制強化 ・市街化調整区域は、建築を伴わないものは規制されていないため、違法に建築され、結果的に無秩序に開発されてしまう。 ・民間の市街化調整区域の現状変更行為は、森林か農地にする場合に限定すべき。
44	P52～55	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆市街地の縮小に転換すべき ・人口減少に対応し、持続可能なコンパクトシティを目指していくためには、市街地の縮小を明確に宣言した「まち(都市)づくり」の考え方に転換すべきと考える。
45	P61～64	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆真駒内駅周辺に商業施設が必要 ・真駒内地区は高齢者が多く、若い世代が真駒内に住みたい！と思ってもらえるような町づくりも重要。 ・人が行きかう駅周辺に商業施設があれば、住んでいる人も助かる事が多い。 ・緑の多い良い町なので、魅力ある町、便利で活気ある町になればと願っている。
46	P65	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆高次機能交流拠点の位置づけ ・モエレ沼公園、さとらんど周辺ではなく、「滝野すずらん丘陵公園」こそ、高次機能交流拠点ではないか。
47	P69	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆カタカナ言葉を日本語に置き換えすべき ・「モータリゼーションの進展」は「車社会化の進展」又は「自動車の普及」では駄目なのか。 ・高齢者はカタカナ言葉は直ぐに理解できない。 ・「地域のニーズ」「コージェネレーションシステム」「チ・カ・ホ」などが多用されている。
48	P71	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆良好な自然環境や優良な農地の考え方 ・「市街化調整区域においては、良好な自然環境(森林等)や優良な農地の保全を前提」とあるが、「良好」「優良」とは具体的には何か。 ・放置されず適切に管理するための仕組みが必要だが、見解を示してほしい。
49	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆市街地の外の自然環境の保全と活用 ・高次機能交流拠点周辺の魅力向上は、新たな自然環境破壊の口実に使われる危険性がある。 ・新たな自然環境の破壊は必要ないので禁止する。 ・既存施設の跡地等の活用を図るべき。
50	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆丘珠空港の移転 ・過去に丘珠空港発着で航空機墜落事故があり、更なる大事故・大惨事発生危険性が十分ある。 ・都市計画マスタープラン(案)に教訓・対策等の反映・記載がないのは問題であり、将来の丘珠空港移転計画を盛り込むべき。
51	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	◆市街化・宅地化の是正 ・丘珠空港の建設以来、市街地は「いびつな発展」を行ってきた。 ・丘珠空港周辺や航空路直下を市街化調整区域に長期間指定し続けているため、これを是正する計画を盛り込むべき。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
52	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	<p>◆公平・公正な市街化・宅地化と補償</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域指定で地権者の土地利用に制限を課す市策は、公平・公正でなければならない。 ・空港周辺及び航空路直下の住宅・住民への償問題(騒音等)と、土地利用に札幌市が制限を設けていた地権者への補償問題を盛り込むべき。
53	P73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	<p>◆市民農園は優良な農地か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「優良な農地との健全な調和」で、市民農園の活用の記述があるが、大規模な駐車場の造成と資在庫の乱立が伴い農地面積を減らす市民農園も優良な農地の扱いなのか。
54	P74	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆公共交通の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通勤・通学で自動車を利用する割合が他都市に比べ高い」とあるが、公共交通が不便だからである。 ・都心を経由しなければ移動できない交通体系とバス経路を改善せずに解決できない。 ・市職員から自家用車通勤をやめ、公共交通を積極利用するべき。
55	P77～78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆市電の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にやさしい公共交通として、郊外と中心部をつなぐ考え方はよい。 ・今後財政的にも負担が多すぎるので、地下鉄以外の方策を検討すべき。 ・可能なかぎり市電延長で考える。市電はもともと高齢者にやさしく、かつ炭酸ガスも出さず、今後、中心部を走る交通機関としてふさわしい。 ・バスで補充しながら市電の拡充を基本に、予算その他の問題を考えながら、50年先を見通した計画をたてるのが重要。
56	P77～78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆公共交通ネットワークの活用策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通ネットワークの活用策として、乗継の利便性向上のため各交通機関(地下鉄、電車、バス、JR列車)の乗車券、定期券等の共通カード化の早期実現を図ることが必要。
57	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆既存インフラの維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能向上の前に将来的に既存のインフラをどのように維持・改修していくのかを考えるべき。
58	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆地下鉄の延伸を視野に入れた交通ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公共交通ネットワークの活用」に「地下鉄の延伸も視野に入れた」という文言を追加してはどうか。 ・人口減少により、予算面が今後厳しくなっていくため、延伸について早期の決断が求められる。 ・延伸を検討する路線は、丘珠空港と札幌ドームへのアクセス向上が期待できる東豊線が挙げられる。
59	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆マイカーの市内乗り入れ削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年後は、団塊の世代も80才を超え、車を持っている人は皆無に近く、マイカーの数も減少すると思われる。 ・マイカーの市内乗り入れを少なくするため、通勤時に地下鉄、バスの始発駅近くにマイカーを駐車できるスペースを確保し、公共交通機関を利用する方策を検討してほしい。
60	P82	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆都心と高速道路間のアクセス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期の実現を目指すため、具体的な目標年次を明示し、積極的に取り組む姿勢を強調すべき。 ・札幌都市圏の道路の機能強化にも貢献する。
61	P83	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	<p>◆地域特性に応じた交通体系の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域循環バスの運行等、地域の足として移動の利便性を高めるための施策導入について記述すべき。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
62	P85	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<p>◆ソフト面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用の効率化のために、省エネ技術のようなソフト面にもフォーカスをあて、「エネルギー効率を上げるためにお金をかけて投資する」という方針を持つことが重要。 ・85ページ(1)【これまでの取組】 ソフト面(省エネ技術)に関する内容を追記
63	P86	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・86ページ【基本方針】 環境配慮型建物の普及をはじめとしたハード面やエネルギー効率の高い設備の運用方法をはじめとしたソフト面による低炭素化を推進します。
64	P89	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・89ページ【取組の方向性】ウ …公共施設等の建替更新時には、効率的なエネルギー使用を目指して、コージェネレーションシステム等の設備の導入を推進するとともに、…
65	P91	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<p>◆再生可能エネルギーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水汚泥から発生するバイオガスによる燃料ガス化エネルギー等の利用が全国的に注目されており、一部実用化されている所もあるので、この点について言及すべき。
66	P91	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<p>◆蓄エネルギーシステムの併用・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートコミュニティの実現にとっても大きな役割を果たすことができると考え、将来的に札幌市として蓄電池や電気自動車などを用いた蓄エネルギーシステムを積極的に推進していくべき。 ・91ページ【取組の方向性】ア …蓄エネルギーシステムの普及・促進により、再生可能エネルギーを効率的に利用することを目指します。
67	P91～92	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	<p>◆再生可能エネルギーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風力や太陽光発電は、低炭素社会という点では評価できるが、手放しでというわけにはいかない。 ・風力についてはバードストライクや低周波による健康被害問題を考慮しなければならない。 ・太陽光も、広い面積で行う場合には、森林伐採など自然に与える影響を考慮する必要がある。 ・廃棄物の処理問題も考慮する必要がある。 ・環境省はまだ太陽光発電器の処分方法を検討中なので、廃棄物処理も考慮して、再生可能エネルギーの活用を検討すべき。
68	P93	5 部門別の取組の方向性 5-4 みどり	<p>◆公園における駐車場整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園緑地を再整備する際には、小規模でも駐車場を設けることを義務化してほしい。
69	P93～96	5 部門別の取組の方向性 5-4 みどり	<p>◆公園づくりへの地域の参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園づくりや管理にあたって、これまで以上に地域の人々に参画してもらい、魅力あるエリアづくりに知恵と力を出してもらってはどうか。 ・地域の人々が公園づくりに参画することを通じて連帯感を高め地域により親しみを抱くようになり、美しい街づくり、故郷づくりにつながることを期待する。
70	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆河川における駐車場整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「憩いとうるおいとやすらぎのある水辺空間」について、遠方の市民がアクセスできるよう、適宜、駐車場を設けることをマスタープラン内で定めてほしい。
71	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆河川管理の国や道との連携を記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国や北海道と協議をしつつ、治水対策や河川環境整備を推進していく」旨の記述も入れるべき。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
72	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆河川の生物生育環境について触れるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川に生育する生物についてはまったく不十分である。 ・カムバックサーモンは危機を迎えるのではないかと危惧している。 ・今後は災害を防ぎながらサケなどが産卵できる河川を指ささなければなりません、今回の都市計画では触れていない。
73	P100 ～101	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆官民連携や技術の継承などを記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な水道システムの構築のためには、他の市町村や企業団との連携、統合、再編さらには事業の広域化を実現し、官民協力体制への取組を積極的に推進すべき。 ・技術の継承やコストの縮減を図り、はじめて持続可能な水道システムの構築が可能となるため、このような取組の記述が必要。
74	P100 ～101	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆水道事業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は人口減少が進み、計画でも水需要が減少すると述べているが、札幌市ではこの状況に逆行する計画が進められようとしている。 ・都市計画の中では、災害時に備えて水源の分散化が必要だとしていますが、札幌市で大地震の危険があるとは述べられていない。 ・札幌市の一日の最大給水量に対して、当別ダムからの取水はわずか7%に過ぎず、当別ダムからの取水のために当別町に札幌市用の浄水場を建設し、配管を建設することは、「持続的・・・」「低炭素化・・・」などの目的に反するのではないか。 ・水質保全の具体的内容はこの計画には述べられていないが、札幌市は、良質な水道水にするとして、0.005mg/Lにすることをめざしているが、全国的なヒ素濃度の基準を札幌市だけさせて、そのための事業をする必要はないのではないか。 ・水源に恵まれているなか、札幌市の水道料金は政令市の平均を上回っており、今後財政的にも厳しくなるため、事業の必要性について市議会全体で論議していただきたい。
75	P102 ～103	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆家庭におけるディスポーザの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理場の余剰能力を有効に活用し、かつ生ごみの減量を推進するために、家庭におけるディスポーザの導入を進めてはいかかが、 ・下水汚泥から発生するバイオガス等の量が増加し、再生可能エネルギーの利活用も期待できる。
76	P104 ～105	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	<p>◆家庭におけるディスポーザの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスポーザ導入により、生ごみの減量がされ、清掃工場等処理施設の負荷が軽減される。 ・処理施設の長寿命化と縮小・再編が可能となる。この点について記述してはいかかが。
77	P108	6 取組を支える仕組み	<p>◆長期的視点で都市全体の将来を考えるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見に耳を傾ける姿勢は必要だが、都市計画の分野は達観して計画を貫くことの方を優先すべき。 ・都市計画は長期的視点で札幌市全体の将来を考える必要があることを重視すべきだ。
78	P108 ～	6 取組を支える仕組み	<p>◆アセットマネジメントの導入が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種都市施設の中長期にわたる更新需要、財政収支、資金確保等の資産管理の手法である「アセットマネジメントの導入」も必須ではないか。